

シブパネルを構成する人たち

シブパネルはそこにいる誰にとっても安心安全の場になることを目指して、みんなで作っていく場です。構成する人たちの呼び名に決まりはありませんが、これまでのシブパネルでは以下のような役割がありました。



モデレーター

シブパネルを進行する人です。中立の立場で、パネリストに質問をし、話しやすい空気をつくります。



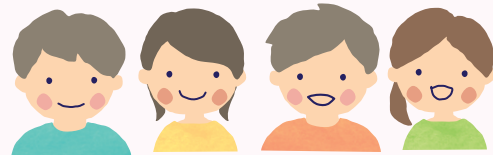
パネリスト

登壇してお話をしてくださるきょうだいの方です。これまでのシブパネルでは各回3名の方をお願いしました。



スタッフ

シブパネルを滞りなく進めるための縁の下での力持ち。会場の設営や参加者の受付、マイク係など行います。



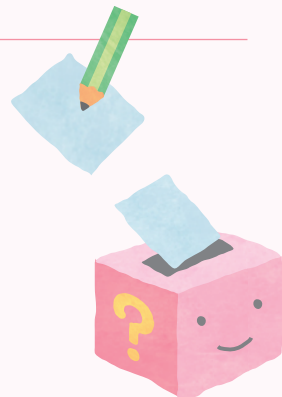
聴衆

客席で話を聴く人たちです。安全安心の場になるためには参加者の方々の役割も重要です。

シブパネルのスケジュール例

これまでのシブパネルは、パネリストの方々に、予め伝えてある質問に順に答えていただく時間と、聴衆の方から集まった質問に答えていただく時間の2部構成で行いました。質問の内容をパネリストと検討する時間をつくるため、休憩時間は長めにとっています。

- 12:30 開場
- 13:00 趣旨説明
- 13:15 パネルトーク
- 14:15 休憩（質問紙を回収）
- 14:30 質問に回答
- 15:30 アンケート記入



COLUMN

きょうだいにとっての安心につながる道

きょうだいが安心を感じることができるとき。一つには、自分の人となりや人生を受け入れてもらったとき、もう一つは、自分に影響を与えた「親や障害児者」についての体験や気持ちや考えを含めたあれこれを、共感的に聞いてもらえたとき、ではないかと考えます。きょうだいにとっての安心を、最初はスタッフ・モデレーター・パネリストの間で作り出し、さらに聴衆も巻き込んで作り出すこと。そのためには、モデレーターや聴衆が担う役割にも目を向ける必要があります。

加えて大切なことは、きょうだいにとって「障害児者との暮らし」がその人の全てではない、という点です。シブパネルという場合は、パネリストの話を

媒介として、パネリスト自身と聴衆、モデレーターとが交流する場でもあります。伝えてよかった・聞けてよかったと思える交流を生み出していくこと、それこそが「きょうだいにとっての安心」につながる道でありましょう。

明星大学人文学部福祉実践学科教授
吉川かおり先生



Check

コラムの全文はこちらから読めます。
<https://sibtane.com/2022/12/sibpanelgb3/>



きょうだいに限らず、この冊子は助けになるでしょう

シブパネルには、きょうだいの声を社会に届けるアドボカシーの機能があります。過去、さまざまな当事者の声为社会を変えてきた歴史があるように、きょうだいたちが社会にメッセージを発する意義はとても大きいものです。但し、それは以下の2点があつてこそです。

① パネリストの安心安全が守られていること

経験を語る中で、傷つくことや、聞き手の期待に合う言葉を選んで後悔することもあるかもしれません。負担をかける可能性もあるからこそ安心安全が必要不可欠です。

② 場に多様性があり価値の押し付けをしないこと

パネリストが他者の期待によって語る言葉を強制されないことはとても大事です。この前提があ

ることが、排除し合わないインクルーシブな場の体現につながると思います。

きょうだいに限らず、さまざまな当事者が安心安全が保たれた中で語り、社会にメッセージを発するソーシャルアクションを為す上で、この冊子は助けになるでしょう。

特定非営利活動法人
Social Change Agency
代表理事 横山北斗さん



Check

コラムの全文はこちらから読めます。
<https://sibtane.com/2022/12/sibpanelgb4/>

